

II. 南京大学への教員派遣事業

1. 派遣教員

派遣教員	武藤 康弘	奈良女子大学研究院人文科学系人文社会学領域 教授
------	-------	--------------------------

2. 派遣期間

10月30日（金）から11月5日（木）までの7日間。

10月30日（金） 関西空港から江蘇省南京市へ

10月31日（土） 安徽省淮南市の安徽理工大学在職の本学大学院修了留学生を訪問。

11月 1日（日） 南京大学へ留学中の本学在籍日本人学生と面談。

11月 2日（月）～4日（水） 南京大学仙林キャンパスにて集中講義。

11月 5日（木） 高速鉄道にて上海へ移動し、上海浦東空港発関西空港着

3. 講義概要

【テーマ】 日本の伝統文化と現代文化

第1日目(11月2日)

午前の「古都奈良の宗教世界」では、日本固有の宗教である神道と、仏教そして中国から伝来した道教が、混然として信仰されている日本の宗教の多様性について解説した。道教を取り上げた学生のレポートも見られたので、日本の信仰と宗教についての理解は深められたものと考えられる。

午後は、映像資料をもとに北海道から沖縄までの日本の伝統的な祭礼を紹介した。なかでも、長野県諏訪大社の御柱祭と大阪岸和田のだんじり祭が学生たちには好評であった。

第2日目(11月3日)

午前は、京都の祇園の舞妓と、和食について映像資料をもとに解説した。学生たちは、花街のしきたりと舞妓と芸妓の舞の稽古の厳しさには驚いたようであった。このテーマに関するレポートが多かった。また、発酵食品を中心とした日本の和食についての講義でも、食文化という身近なテーマであったため、中国の食文化と比較したレポートが多かった。

午後は、映像資料をもとに、クールジャパンのブランド戦略の展開と問題点について解説した。

第3日目(11月4日)

午前中は、日本の現代文化を講義した。はじめに **J-pop** の歴史についてとりあげ、最後に初音ミク等のボーカロイドの進化について解説した。さらにセーラームーンを切り口に、日本のアニメ産業について解説をした。日本の漫画やアニメについては、中国でも『知日』等の日本研究雑誌のみならず、『新視線』等の一般雑誌でも特集が組まれるほど根強い人気があるため、学生達も大いに関心を示していた。

最後に現在の日本の大きな社会問題となっている女性の貧困について、短時間であったが映像をもとに解説した。このテーマに対する学生たちの反応は極めて大きく。レポートでも女性の貧困問題を取り上げたものが多かった。日本の政策として生活保護などの生活保障、国民皆保険、国民年金等の社会保障制度が運用されていることを解説したが、それでもセーフティネットから漏れてしまう一部女性たちの貧困の実態に、抱いていた日本のイメージと大きく異なるためにかなりショックを受けたようであった。学生達のレポートでも、中国の女性の立場と日本の家を中心とした家族制度を比較するものや、社会問題をテーマとして授業でのダイバートの提案等があり、教員としても興味深い内容が多かった。

4. 参考資料：受講学生のレポート一覧

女性の貧困、伝統祭礼
日本の祭り論、地理学の視座から
日本の伝統文化、道教との関連から
猫キャラ論 すばらしい内容
日本の祭り論
中国の伝統文化の日本への影響
醤油と舞妓